

平成11年度 福島県教育研究発表大会より

数学科における中・高連携について — 中・高連携学習指導研究員の3年間の歩み —

平成12年2月10日(木)に、県文化センターにおいて、平成11年度福島県教育研究発表大会が開催されました。

そこで、梁川中学校の三品勝彦教諭と福島南高校の樋口則雄教諭の二人による中・高連携についての発表が行われました。

中・高連携の必要性

- 生徒の側から見た場合の必要性
 - ・授業の方法の違いや進度の違い
- 教師の側から見た場合の必要性
 - ・生徒の既習事項と未習事項の把握の不十分さ
- 学校をとりまく環境から見た必要性
 - ・大学入試の易化傾向と少子化の恩恵
 - ・価値観の変移

数学科における中高連携について

中・高連携学習指導委員会の3年間の歩み

梁川町立梁川中学校 教諭 三品 勝彦
福島県立福島南高等学校 教諭 樋口 則雄

中・高連携学習指導委員会の取り組み

- ① 学習指導法の研究
- ② つなぎ教材の作成
- ③ 県外視察による先進校研究
- ④ 学校内外からの教育に対する意見交換



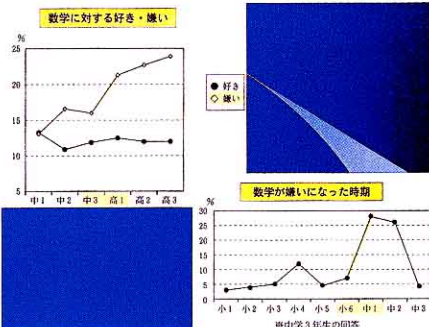
中・高連携の必要性

- 生徒の側から見た場合の必要性
 - ・授業の方法の違いや進度の違い

① 学習指導法の研究



- 授業形態の違い
- 導入方法の違い
- 授業を進める速さの違い
- 教材の扱い方の違い
- 演習方法の違い



② つなぎ教材の作成

- 1年次 「サクシードⅠ」
学習指導のポイント
つなぎ教材の開発
- 2年次 「サクシードⅡ」
教科ごとのコンセプトにより編集
- 3年次 「中高連携の手引き」
中・高連携の具体的あり方・方法の指標

